

- 問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
- 編集 公民館報編集委員会
- 印刷 株式会社プラト

公民館報 まつもと

発行
2022
7/30

松本市立博物館分館
松本市 四賀化石館
MATSUMOTO CITY SHIGA FOSSIL MUSEUM



関連記事6面

シリーズ デジタル化 〈第3回〉

豊かで快適な未来へ

「デジタルシティ・松本」に向かって進んでいる松本市のデジタル化。そこにどんな便利な社会が待っているのでしょうか。

デジタル化の定着は慎重に

これからは市役所窓口での諸手続きも、あえて出向くことなく、混雑を避けて自宅での簡単な操作でできるようになりそうです。しかし、現時点では誰もがスマホやパソコンを持ち、活用ができるというわけではありません。

松本市では「誰一人取り残さない」ように、インターネットなどの情報技術を利用できない方への対応を考え、公民館での講習会なども実施しています。しかし、習得の機会を設けるだけでは根本的な解決にはつながりません。また、十分にICT(情報通信技術)を活用している世代であっても、顔が見えないやり取りに不安を感じている方もいるようです。人との温かみある関わりを残す工夫と、孤立化しない配慮が望まれます。



スマホ体験講習会(7月8日白坂地区公民館にて) 講習会は毎月2回、各地区公民館で開催されます。

適応性が高い子どもたち

松本市では市立小中学校に1人1台の学習用端末を整備し、令和3年度からは、鉛筆やノートなどと並ぶ「新しい文房具」として端末を活用しています。子どもたちは大人以上にデジタル技術を使いこなし、将来的に情報社会に対応できる力を備えた人材になることが期待されます。

まだ課題もあるかと思われませんが、今後「教育のデジタル化」が進めば、一人ひとりの個性を尊重する学びの実現も可能と言われています。それは「デジタル化」のメリットであり「豊かな生活」にもつながることでしょう。

人にも社会にも 価値あるデジタル化

百回のメールのやり取りよりも、わずかな時間でも顔を合わせての会話に大きな意味があることを私たちは知っています。「デジタル化」の推進によってもたらされる快適な未来はもうすぐそこにあり、社会課題の克服に向けて必要なことであることも確かです。その中で、一人ひとりが豊かさや幸せを感じられるまちを目指し、人と人とのつながりを大切にした「デジタルシティ・松本」でありたいものです。



少し先のデジタルの担い手(旭町小学校)

わがまち自慢(四賀地区) バラ公園

種類のバラを手放すことを知り、譲り受けたものです。

市営四賀球場の西駐車場下側、四賀支所の北東の高台にバラ公園があります。約千㎡の庭園に300本あまりの色とりどりのバラが咲き誇り、アーチや西洋風あずまやにベンチなどが配置された、自然を大切にしたいイギリス式庭園風です。

バラ園の誕生は、2020年地元有志の『四賀元氣プロジェクト』が計画しました。植えられたバラは、寿豊丘の百瀬茂さんが育てた多くの

バラの苗は四賀市営球場の緑化管理をしていた会社に管理養生をしてもらいました。庭園整備・植え込み作業などたくさんの方の協力を得て、今年の開花を迎えました。

四賀地区には、国内最大級の福寿草の群生地があります。プロジェクトメンバーはバラ公園とともに『花の里』として四賀が知られ発信してゆくことを期待しています。



来年はもっとあでやかに皆さんをお迎えます

視点

⑦ 学生と住民のたまり場
信州大学
ロッピーキ

たまり場ロッピーキ

信州大学の学生グループ「ロッピーキ」は、大学近くにある空き家を学生が中心になってリノベーションし、学生や住民、誰もが集える、シェア・コミュニティスペースづくりに取り組んでいます。活動は2016年から始まり、今年6周年を迎えました。現在は、月曜日と金曜日を中心に、誰でも気軽に使える「OPEN DAY」や映画鑑賞会などを企画しています。

また、ロッピーキは場所の活用を目的に、貸しスペースとしても利用ができます。ミーティングや作品の制作、フリーマーケットなど、さまざまな学生グループがロッピーキを活用しており、学生グループの活動拠点になっています。

「ロボでつながる」

他団体とのコラボにも積極



訪れた人の足跡「ロッピー木」

的です。代表の鈴木七海さんは「面白いことをやっている団体、面白い人をロッピーキに呼んで、一緒に学びたい」と話し、コラボがきっかけでそれぞれの活動の輪が広がることを大切にしています。

先月には、「ゆうぐれの箱」と題し、古本屋、珈琲屋とコラボして誰でも気軽に参加できる読書会を行いました。コラボ企画を通して、ロッピーキが他の団体の活動を紹介する場になり、学生同士の新たな交流の機会を作り出します。

地域に灯る明かり

暗くなるにつれ、ロッピーキからの漏れ光が通りを照らします。鈴木さんは「通りに電気が点いている家があると地



読書会の様子、使い方は人それぞれ

域に活気が生まれる」と述べ、ロッピーキが地域に活気を取り戻す明かりになることを目指します。

ロッピーキは、学生、住民関係なく誰もが利用できる場であり、過ごし方も人それぞれです。何気なく集まった人たちが交流しつながることで、ロッピーキがその人の居場所になり、多様な灯りを発します。

令和4年度 新任公民館職員

- 公民館長 中央 石川 善啓
- 第三 武井 保典
- 城北 小岩井 成人
- 大手 遠藤 彰
- 和田 萩原 良治
- 安曇 大野 修
- 公民館主事 中央 酒井 謙一
- 第一 朝倉 光貴

- 第二 栗田 幸信
- 東部 古謝 彰貞
- 城東 三澤 孝吉
- 白板 片桐 史門
- 庄内 小林 大
- 中山 宇治 樹
- 神林 丸山 貴大
- 笹賀 矢口 竜也
- 奈川 竹村 夕馬
- 美鈴

令和4年度 館報全市版編集委員

- 第一 山内 敦子
- 第三 上條 恒嗣
- 東部 小澤 智浩
- 城北 吉見 隆男
- 中央 澤柳 秀子
- 安原 大和 靖
- 城東 浅田 達夫
- 白板 高山 剛正
- 庄内 大野 彰孝
- 鎌田 南雲 榮子
- 松南 藤森 俊男

- 島内 川上 弘
- 中山 真次 敬子
- 島立 上條 貴志子
- 新村 山口 茂
- 和田 塩原 真由美
- 神林 藤澤 良彦
- 笹賀 窪田 守
- 寿台 上平 貴明
- 松原 江藤 弘子
- 岡田 曾根 原 忠芳
- 増沢 豊

- 入山 大澤 深志
- 里山 浅海 智広
- 今井 中村 朗
- 内田 酒井 洋
- 本郷 杉江 夏実
- 四賀 松村 京子
- 安曇 赤穂 武美
- 梓川 森 鉄雄
- 波田 古田 豊樹
- 大学生 工藤 太陽



通勤途中に見る北アルプスで好きな景色は雪の北アルプス。降り始めの頃の姿から、だんだんと雪が増え姿を変えていく北アルプスの変化を見るのが日課のようになり、毎年この雪はいつまであるのか?と思いつつ職場へと向かう▼冬の晴れた日に雪の北アルプスを見ると元気をもらい「今日も1日頑張ろう!」そんな思いになる。時にはこのまま白馬まで行きたい思いになることも。そんな北アルプスの雪も少なくなってきた▼初冠雪から変わり行く北アルプスを見るのが楽しみとなり、同じようだが毎日違うように見える北アルプスを写真に収めることも。春になりひと雨ごとに雪がなくなっていくのを見ると寂しくなるが、里では雨でも山は雪ということもあり雪が増えることも▼そんな北アルプスも冬の山から夏の山へと変わりつつある。まだ山には雪はあるが梅雨が終わる頃にはなくなってしまうだろう。寂しいものがあるが夏の北アルプスは冬の北アルプスと違った姿を見せてくれるので飽きることはない。

おこひる

歴史探訪 探ろう松本 29

いつの時代も重要な拠点 四賀地区

交通の要衝

四方を山に囲まれ、会田川・保福寺川が流れる四賀地区は、古くから嶺間と呼ばれ、縄文時代中期からの遺跡が発見されています。朝廷により東山道・錦服駅が置かれたと言われており、交通の要衝として栄えました。

鎌倉時代には伊勢神宮御料地である会田御厨が置かれ、小県地方から進出した会田氏が地頭となりました。虚空蔵山を中心に山城を造り、長きにわたりこの地を治めました。

江戸時代には善光寺道(北国西脇往還)や江戸道(保福寺道)が通り、刈谷原宿・会田宿・保福寺宿が置かれ、江戸中期以降は幕領に編入され、明治を迎えました。

明治初期、27カ村からなっていました(1889)年の町村制施行により、錦部・会田・中川・五常の4カ村



虚空蔵山の斜面に建てられた岩屋社

となりました。昭和30(1955)年、町村合併促進法により合併し、4カ村の合併を賀すという意味を込め「四賀村」と名付けました。

文化財の宝庫

昭和11年に発見されたクジラの化石が穴沢に現地保存され、化石館には1300万年前のマッコウクジラの完全化石が展示されています。

幕領であったため、廃仏毀釈の影響を受けず、寺院や仏像が数多く現存します。鎮守神28社、寺院10、小祠・社殿約500、堂7などがあり、石造文化財においては2900基にもおよびます。

新しい風

四賀地区は、人口4139人1899世帯(7月1日現在)、27町会で構成されています。

都会から若者の移住希望も多く、空き物件待ちの状況です。多くのアーティストも移り住んで来ました。新旧の住民が集う「結ぶ市」も盛況です。新しい文化の拠点の、これからが楽しみです。



大規模な「大結ぶ市」は年4回開催

松本平の野鳥たち

ガビチョウ (2021.10 松本市・里山辺 写真提供:信州野鳥の会)

近年各地で分布拡大しており、松本市内でも高密度で観察されている鳥類の「特定外来生物」です(2005年に指定)。大きさはスズメの倍くらい。藪を好み、姿を見る機会は少ない。留鳥化し1年を通じてかなりやかましく囀り、何の鳥の声?との問い合わせが多い。

表紙について

絶景の峠道や練習コースなど、松本市はオートバイを楽しむ環境に恵まれています。無理せず急がず、風を切って走った後は、お気に入りの場所でコーヒーブレイクです。

(撮影 2022.6.19 松本市四賀地区)